



## 大本山永平寺

### 少年少女本山研修

暑い時節が訪れました。今月に孟蘭盆会が勤められるとともに夏休みが始まることもあり、「禅の集い」と称した小学生、中学生を対象とした少年少女本山研修がいくつもあります。

昭和四十六年に落慶した「吉祥閣」は有縁の皆さま、曹洞宗寺院檀信徒さまの教化の道場として現在も広く活用され、吉祥閣内の「大講堂」で研修が催されます。

緊張と不安で臨む研修ですが

行持に際しては児童の表情はとても凛として真剣さが伝わってきます。

坐禅、勤行、作務、食事、洗面お手洗い、入浴それぞれが大切な行持であり、修行であります。修行道場の生活様式に初めて直面する児童は日常との「差」に驚きますが、柔軟性と吸収力のお蔭で恙なく対応しています。仏教は人と人との結びつきと、関わりを深めていくことの大切さを教えてくれる宗教です。豊かな人間性を構築するにはここを見逃しません。



その役割の一端を担う私どもも真剣に指導しております。



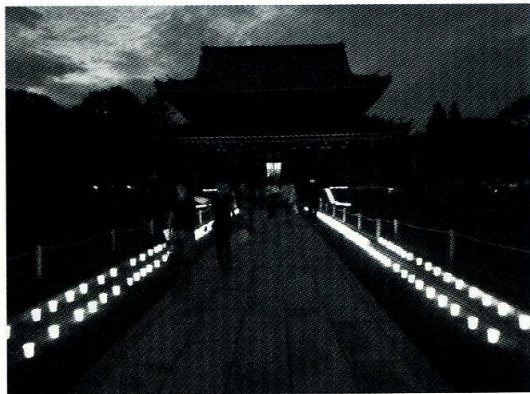
## 大本山總持寺

大本山總持寺は七月にお盆を迎えます。一日～十一日まで、お盆供養施設食会せじきえが行われ、多くの檀信徒が本山を訪れます。十日～十五日は、棚経たなまろの期間になります。檀信徒各家に本山の僧侶が訪れ、お盆の供養をいたします。この春上山した修行僧にとつては、檀家さんと身近に接する初めての機会となり、世間の人びとの信仰を知る上でも、貴重な経験となります。また十三日の盆迎え、十六日の盆送りには、本山の広大な墓所が仏花とお線香の香りで満たされ

ます。

一連のお盆の行持の最後は、十七日～十九日の御霊祭りみたまです。御霊祭りは元来、戦時中に起こった鶴見市場いちはば駅構内での鉄道事故と横浜大空襲での犠牲者を慰霊する目的で始められました。三日間とも夕刻から始まり、午後九時には終了します。大駐車場では、修行僧たちのリードで盆踊り大会が行われます。時を同じくして、仏殿に向かう参道には無数の万灯が供えられ、真夏の夜空を厳かに照らします。本年の御霊祭りでは、東日本大

震災で犠牲になった方がたの御霊を、合わせて慰霊いたします。



# 曹洞俳壇

選・村松五灰子

シャンソンの声こもる喫茶春愁

埼玉県 日尾野安子

評 もの憂い心に流れているシャンソンが纏わる。その頃の  
イブ・モントアン「枯葉」、エディット・ピアフ「バラ色の人  
生」か高英男の「雪の降る街を」、少し声の低い石井好子か  
も。春愁にはシャンソンが添うようだ。

踏青や地球はこんなにからかいかい

福岡県 村山 佳朗

評 佇む足元の草萌える大地の息吹。踏める土の柔らかさは  
まだまだ地球は大丈夫。踏青に未来を感じさせる。句は大ら  
かで明るい。

春愁の女をつくる試着室

手話交へ御詠歌唱ふ花の昼

海女小屋に残る育児の本二冊

幼の絵どれも春色はみ出せり

春昼や目からこぼれてゆく活字

肩の荷を下ろせしごとし寒の明け

新緑の全山まぶし光堂

腰痛を宥め草取り好きだから

コンセントごとごとく抜き摘草に

保育所の散歩の時間葱坊主

静岡県 柳澤 猛郎

愛知県 大原 静江

三重県 山下 利夫

島根県 藤江 堯

岡山県 塩川 悦子

北海道 平田 リエ

福島県 大槻 弘

岩手県 市野川 隆

三重県 野呂 と志

千葉県 鈴木 英子

## \*選者吟

遠目にも雷棲める雲と見る

五灰子

## \*作句小見

ところが動かなければ俳句になりません。人を見たり、植  
物、身近な出来事で「あつ」と僅かに心が何かを感じたとき  
です。感じた自分を見ることです。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

海風の連れ来る磯の香り濃くみちのくの  
春海より立ちぬ 岩手県 関合 新一

評 震災で多大な被害を受けた陸奥の地にも季節は巡り春が  
やつてきた。一月前には牙をむいた海が、今はやさしい春の  
訪れを告げる。自然の力の前に無力で小さな存在である人間  
をいとおしむ気持が、坦々とした叙景の背後に伝わってくる。

吾妻嶺の雪形うさぎ仰ぎつつ土壤汚染の畑の  
地見る 福島県 大槻 弘

評 福島第一原発事故による土壤汚染も深刻な震災被害である  
。吾妻嶺の雪形がうさぎに見える頃は野菜の種蒔きの時期  
という。常の春ならぬ事態への遣り場なき口惜しさが滲む。

野馬追も法螺貝の音も無くなりて「相馬流れ山」唄いつまた  
活きむ 福島県 齋藤 昭  
信濃路は雪間に草の芽吹く頃道祖神に逢いに行きたし

東京都 津久井すみ子

わずかなる畑に妻は一心に病を忘れ草むしりいる

秋田県 齊藤 真一

ひさびさに来たる曾孫のまつわれれば良寛さんとなりぬ一日を

愛知県 前田 操

つつがなく暮れゆくことのありがたし夫と二人の米を磨ぎつ

島根県 門脇 順子

冬越しのキャベツは太く緑濃く葉陰に宿る露の滴る

秋田県 伊藤 スエ

宅配の筍の脇にそえられし春蘭ひと株友の気配す

大阪府 西口 節子

陽気なる母は病で言葉なし付き添う妻は雪に目をやる

神奈川県 青山 和一

五歳児の細き指先に見惚れおり千代紙に生るる金の鶴二羽

山形県 多田 さよ

九十円也熱湯三分待てとありカップヌードル手枕して待つ

東京都 石場くに子

## \* 選者詠

わが窓にぶつかりてくる鳥のいて希望のよ  
うなもの湧きてくる ちづ

## \* 作歌小見

作者のお住まいの地を考慮せずには、味わえないような気  
持で一首一首拝見しました。今回は被災された地域からも多  
く作品が寄せられ歌の力に驚きました。それと同時に何でも  
ない日々の暮らしを大切にして詠う作品にも心引かれました。